

## 答申を踏まえた基本的な方向性に係る市民検討会の実施結果

### 1. 実施概要

開催日時	検討テーマ	参加人数
第1回 令和7年9月27日(土) 9:00~12:00	現地見学 山下ふ頭再開発『答申を踏まえた基本的な方向性』の説明等、グループワーク	31人
第2回 令和7年10月18日(土) 9:00~12:00	山下ふ頭再開発『答申を踏まえた基本的な方向性』についてグループワーク (テーマⅠ 世界に誇れる、魅せる『緑と海辺』空間、『緑・海辺のまち』を支えるインフラ構築と空間整備)	30人
第3回 令和7年11月8日(土) 9:00~12:00	山下ふ頭再開発『答申を踏まえた基本的な方向性』についてグループワーク (テーマⅡ 持続可能なまちを支える明日へのイノベーション、テーマⅢ 活気に満ちあふれ、周辺へと広がる新たな賑わい、『緑・海辺のまち』を支えるインフラ構築と空間整備)	29人
第4回 令和7年11月29日(土) 9:00~12:00	山下ふ頭再開発『答申を踏まえた基本的な方向性』についてグループワーク (市民が結ぶ新たなまちの環)	27人
第5回 令和7年12月20日(土) 9:00~12:00	これまでの振り返り、まとめについてのグループワーク (山下ふ頭のまちづくりで「大切にしたい」、「重視したい」、「実現したい」と考えることは何か。なぜ、そのように思ったのか。)	31人

## 2. 意見の整理と反映

第5回市民検討会での各グループ発表の内容を記載しています。加えて、統括ファシリテーターが各回の議論を通して把握した各意見や、その意見に込められた背景にある想いについても、該当する内容に紐づけて示しています。

### 表の見方

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い	対応状況	対象
第5回市民検討会の実施概要（市HPに掲載）に記載している、各グループの発表概要を記載しています。 各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想いについて記載しています。		「対象の見方」の通り記載しています。

### 対象の見方

#### 【凡例（対応状況）】

- 反映 : ご意見の一部または全部を反映したもの  
包含・賛同 : ご意見の一部または全部が、基本的な方向性の内容に含まれている、もしくは、賛同いただいたもの

#### 《記載例》

対象 : I-1-(1)

事業計画案記載場所 : 第5章 事業の方針

テーマ I 世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間

取組方針 1 多くの人々の関心を惹く緑・海辺空間

(1) 周辺地域と連なる水際線と、都市を包み込む緑・海辺空間の創出

#### 【凡例（事業の方針の各テーマ）】

I : テーマ I 世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間

II : テーマ II 持続可能なまちを支える明日へのイノベーション

III : テーマ III 活気に満ちあふれ、周辺へと広がる新たな賑わい

IV : テーマ IV 市民が結ぶ新たなまちの環

イ : 「緑・海辺のまち」を支えるインフラ構築と空間整備

## Aグループ

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い	対応状況	対象
<p>「未完成が完成」をコンセプトに、最初から完成させずに余白を残し、市民の声を反映して常に変化させ、森・海・景観を楽しめる横浜らしい空間づくりを進める。</p> <p>いつ来ても同じではなく、「来るたびに形が変わる」楽しさを大切にしたいため、訪れるたびに変化し続ける、「未完成」が魅力となるまちを求めている。</p> <p>山下公園や元町・山手などの周辺の緑や海辺がつながることで、都心臨海部全体のバランスがとれると考えたため、横浜らしい緑と海が一体となった景観を求めている。</p>	反映	IV
<p>市民が育てていく自然の大きなこんもりとした森を配置する。森には集客のための体験型アトラクションや外周リングを作り、ベイブリッジやみなとみらいの景観を楽しめるようにしたい。</p> <p>市民が主体的にまちづくりに関わり続け、100年という長い時間をかけて育てるまちに対して誇りを持つと考え、都市化が進む中でも、「自然と共存することが大事」と感じているため、自然の「森」をまちづくりの中心に据えた、都市と自然が共存する空間を求めている。</p> <p>公園はあるが「森はない」現状の中で、より深い自然体験を求めているため、森のアトラクションや海の体験を通じた、心躍る賑わいを求めている。</p> <p>景観を大事にしていきたいため、横浜らしいデザインや物語性のある、歩いて楽しい空間を求めている。</p>	反映	Ⅲ-1-(1) IV
<p>海辺には自然を感じられるハーバーや海中公園を設置し、商業エリアではガス灯や横浜ゆかりの文化を取り入れたい。</p> <p>海の現状を知ることで、環境意識や学びにつながると期待しているため、海に触れることのできる場を求めている。</p>	反映	I-2-(1) IV
<p>「イトコドリ・ヨコハマ」というキーワードで、森・海・景色、色々なものを楽しめる場所を作れたらいいと思う。</p> <p>-</p>	包含・賛同	
<p>-</p> <p>多様な場面で柔軟に活用できる場所も必要であると考えたため、平時はイベント広場、災害時は物資受入拠点となるような、オープンスペースを求めている。</p>	包含・賛同	

## Bグループ

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い	対応状況	対象
<p>横浜は日本初が多く、貿易の拠点であり、横浜が国際化する拠点であったことをハイカラと捉え、山下ふ頭を「ハイカラ特区」として再生し、歴史・文化・国際性を活かした魅力ある拠点を目指す。</p> <p>横浜には豊かな歴史・文化が息づいているため、「歴史と文化を象徴するハイカラ特区」としての山下ふ頭の再生を求めている。</p>	反映	IV
<p>横浜はこれまで変化を受け止めた場所であり、単なる施設を集積するのではなく、多様な方が集まり、芸術が表現できる場があると良い。</p> <p>海に囲まれた広い土地という特性を活かし、自由度の高い表現の場ができると考えたため、横浜らしい古き良き文化・芸術・音楽が息づく賑わいの創出を求めている。</p> <p>幅広い方々が行きたいと思うきっかけが重要であると考えたため、シンボリックなアート作品や建築など、「行く理由」となる象徴の整備を求めている。</p>	反映	III-1-(1) IV
<p>企業が投資したいと思わせるような仕掛けも必要であり、立地を生かした潮風を感じる景観とイベントでにぎわいを創出する。</p> <p>持続的な賑わいには、民間の投資意欲を高めるブランディングが必要だと認識しているため、民間企業が投資したくなる環境を求めている。</p>	包含・賛同	
<p>市民が憩い、健康増進を図れるよう、屋内外が一体となった空間がほしい。</p> <p>文化・芸術などさまざまな活動に日常的に触れることが、暮らしを豊かにすると考えたため、市民の憩いの場となり、健康増進にも寄与するような、緑地や屋内外が一体となった空間を求めている。</p>	包含・賛同	
<p>民間の知恵を取り入れながら、未来に向けた文化発信の場とし、市民の誇りとなるアイデンティティとなることを期待する。</p> <p>「山下埠頭」という場所自体の認知度が低く、十分に発信されていないと感じており、芸術・文化の発信力が他地域に比べ弱いという問題意識があるため、文化・芸術を軸とした横浜らしい魅力発信の強化を求めている。</p> <p>市民が働く・学ぶ・創造する場として、より深く関わることでシビックプライドを高めたいと感じているため、歴史・文化・技術を学べる教育的な場の醸成も求めている。</p>	反映	III-1-(2) IV
<p>-</p> <p>周辺エリアとの回遊性が十分に確保されていないため、山下ふ頭から周辺へ回遊が広がる交通ネットワークと、水上交通の活用を求めている。</p>	反映	イ-1-(2)

## Cグループ

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い	対応状況	対象
<p>市民として大事なものは財政面や公共インフラの整備などに寄与することではないかと考え、山下ふ頭を技術革新と自然共生の拠点としたい。</p> <p>多額の税金が投入される以上、「横浜市にどう還元されるのか」を重視しているため、市財政や公共インフラに寄与する、持続性の高いまちづくりを求めている。</p> <p>テクノロジーと自然の両方があることで、働く人の心身の健康、イノベーションの質の向上につながると考えたため、山下ふ頭を「YOKOHAMA ツインズ テックとネイチャー」として、「技術革新と自然共生」の拠点とし、エンジニア・エリアと水・森・憩いエリアを対に整備することを求めている。</p> <p>横浜が港町として多文化・多国籍の歴史を持つことから、技術者・企業・市民・インバウンドが交わる国際的拠点がふさわしいと感じたため、多国籍の企業・技術者が集まるイノベーション拠点の形成を求めている。</p>	反映	II-2-(1) IV
<p>研究開発と憩いの場を融合し、働く人がリフレッシュでき、若者が最先端の技術に触れあうことで、一過性ではなく持続的なものとして作り出せる空間づくりがよい。</p> <p>「閉ざされたふ頭」ではなく、「誰にも開かれたふ頭」であってほしいという思いがあるため、技術者や市民がリフレッシュできる、開かれた森・水辺の憩い空間を求めている。</p> <p>将来の産業を担う人材を育てることが不可欠であるため、こどもや若者が最先端技術に触れ、学べる環境の整備を求めている。</p> <p>一時的なイベント性よりも、「新しい産業の育成」や雇用・税収など、長期的な効果を期待しているため、研究開発拠点や先端産業の集積の促進を求めている。</p>	反映	II-1-(1) IV
<p>交通整備だけでは人は来ず、「行く価値」とセットで考える必要があると捉えているため、最先端技術や自然環境を活かした体験を求めている。</p>	包含・賛同	
<p>環境負荷の少ない次世代型都市づくりを推進するため、次世代エネルギーやエコな移動手段（トクトック号・ゴンドラ）など、グリーン技術の実装を求めている。</p>	包含・賛同	
<p>地盤や防災への懸念から、安全性と持続性を優先したいと考えたため、安心して長く使い続けられる空間を求めている。</p>	包含・賛同	

## Dグループ

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い	対応状況	対象
<p>これまでの議論を通じて、「誰もが気軽に訪れ、繋がりを感じられる空間」が重要と考えた。山下ふ頭の3本の指をイメージし、3つのテーマを掲げた。</p> <p>①移動手段の楽しさと利便性を両立し、車・電車・水上交通を観光資源化。</p> <p>初めて来る人でも迷わず、気軽に来られることが、賑わいの土台になると考えたため、誰もが気軽に訪れ、繋がりを感じられ、目的がなくても、散歩や“ふらっと来るだけ”で楽しめる空間を求めている。</p> <p>移動手段を楽しめるようにすることで、山下ふ頭だけでなく横浜全体の魅力向上につながると期待しているため、分かりやすく便利なアクセスに加えて移動手段そのものを楽しめる「移動のコンテンツ化」を求めている。</p>	反映	IV イ-1-(2)
<p>②市民から観光客まで、ふらっと来て参加できる多様な体験を提供。</p> <p>山下ふ頭が「特別なイベントの時だけ行く場所」ではなく、「あそこに行けば何かやっていると思える場所」があることが、日常の楽しみや地域の活力につながると感じているため、日常的な賑わいの創出を求めている。</p> <p>多様な世代・属性の人が集まることで、出会いや交流が生まれ、繋がりを感じやすくなると考えたため、子どもからシニア、観光客、海外の人まで、多様な人が楽しめるエリア構成を求めている。</p>	反映	IV
<p>③まち全体に統一感あるデザインを施し、歩くだけで楽しめる魅力を創出。</p> <p>港町横浜らしい景観を埠頭全体で感じられることで、「ここならではの」価値が生まれると感じているため、港町・横浜の街並みをテーマにした、一貫性のある情緒的な景観を求めている。</p>	包含・賛同	
<p>-</p> <p>誰もが気軽にまちを回遊できる環境が経済に良い影響を与えると考えたため、周辺地域・観光地との連携による、横浜全体の活性化と経済循環の促進を求めている。</p>	包含・賛同	

## Eグループ

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い	対応状況	対象
<p>最も重視したのは「横浜市民のための場所」であること。</p> <p>現状の海沿い・観光地は「観光客向け」で、地元民はあまり行かないと感じているため、「横浜市民のための場所」になることを求めている。</p> <p>横浜市民の暮らしを豊かにする空間を求めているため、心が豊かになり、リラックス・リフレッシュできる広々とした憩いの場を求めている。</p>	反映	IV
<p>横浜らしい景観はアイデンティティでもあるのでそれを大切にしたい場所にしてほしい。</p> <p>横浜らしい景観が「シビックプライド（誇り）」の源泉であり、それを守りたいため、アイデンティティ（山下公園やベイブリッジ等との調和など）を大切にすることを求めている。</p>	包含・賛同	
<p>市民に利益を還元できる持続可能な仕組みを構築できるとよい。</p> <p>税収を最大化しコストを最小にするすることで、市民への還元につながると考えたため、税収とコストのバランスが取れた持続可能な環境や、建物投資の民間主体化と税金の市の支出の縮減を求めている。</p>	反映	II-1-(1)
<p>持続可能にしていくために、安全性、防災・防犯、維持管理を考慮し、段階的な開発を行うことも考えられる。</p> <p>埋立地という立地から、地震・津波・液状化への不安が強く、安全性を最優先したいため、防災・防犯・維持管理を踏まえた再開発を求めている。</p> <p>大規模に一気につくるよりも、「徐々につくる、試しながらつくる」方がリスクを抑えられると考えたため、段階的な開発や「何も作らないトライアル」も含めた柔軟な進め方を求めている。</p>	反映	IV イ-2-(1)
<p>コストと税収のバランスを図り、次世代に資産を残す現実的な再開発をしてほしい。</p> <p>税金が投入される以上、「税収&gt;コスト」「ランニングコスト最小化」が前提と考えたため、バランスを図りながら、次の世代につながるまちづくりの実現を求めている。</p>	反映	II-1-(1)
<p>-</p> <p>企業やものづくりの力を活かすことで、横浜の産業基盤を強化し、企業を引き止める力にしたいと考えたため、企業が参画運営するパビリオンや文化施設、ものづくり・イノベーションを伝え学べる場を求めている。</p>	反映	II-1-(2)

## Fグループ

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い	対応状況	対象
<p>「海と緑の再生とワクワク体験」「進化し続ける、終わらない進化」「ヨコハマブルーを目指して」に焦点を当てた。</p> <p>「楽しくなければ人は来ない」と考えたため、環境やエネルギーと結び付けながら、「海と緑の再生とワクワク体験」を両立した山下ふ頭を求めている。</p>	反映	I-2-(1)
<p>海の浄化や稚魚放流など環境再生を推進し、こどもたちが体験できる場を創出する。</p> <p>横浜のイメージカラーである「青」にふさわしい、きれいな海を取り戻したいと願っているため、海の浄化、稚魚・稚貝放流など、環境再生が“見える・体験できる”場を求めている。</p> <p>こどもたちの遠足などをきっかけに、家族や多様な人が何度も訪れる場所にしたいと考えたため、大人も子どもも楽しく学び・参加できる、季節イベントや体験プログラムを求めている。</p>	反映	I-2-(1) III-1-(1)
<p>様々な方法を試し、新たな発電方法を産官学共同で進めることで進化を生み出していく。</p> <p>環境負荷の高い時代を経て、「今から作り変えるなら環境への配慮を」との思いが強いため、産官学で新たな発電方法に挑戦し、ゼロカーボンを先導するエネルギー拠点を求めている。</p>	包含・賛同	
<p>最先端技術を活用して生まれた野菜などは収益に変え、学校給食に活用することも考えられる。</p> <p>エネルギーを自前で賄うことが、平時の環境負荷軽減だけでなく、防災の観点からも重要だと考えたため、野菜ハウス・植物園・野菜工場などにおいて、食・エネルギーを結びつけた最先端技術の導入を求めている。</p> <p>「市民への還元」を実感しやすくしたいと考えたため、野菜工場の収益を施設管理や学校給食に還元する、地域に戻ってくる循環を求めている。</p>	反映	II-1-(1)
<p>横浜のイメージカラーはブルーであり、海もきれいな青になってほしい。</p> <p>現地を見た「グレーのふ頭と海」を受け、「このままでは人が来たいと思えない」と感じたため、「ヨコハマブルー」の海と緑に包まれた場所への転換を求めている。</p>	反映	I-1-(2)
<p>-</p> <p>人が訪れたい魅力を高めるため、裸足で寝転がれる芝生など、憩いの場としての緑やフレキシブルな空間を求めている。</p>	反映	I-1-(1)